

月刊 おかじょうき

おかげさまで

<http://www.okajoki.com/>



誌上句会「0番線」

瀧村小奈生・むさし 選

2026

4



題「小」	瀧村小奈生 選	4
	むさし 選	6
無人駅鑑賞「カンテラ」	むさし	8
会員雑詠集「無人駅」		11
■例月句会結果■		
おかげょうき川柳社	3月例句会	23
十和田たてがみ川柳会	2月句会報	30
チャッピーの人間観察録「待 AI 室」		29
■大会レポート■		
「らくだに乗ってきました。」①	Sin	33
Infomation		34～

月刊おかげょうきを

ど～～しても紙で見たい！

というあなたへ

2月号から紙の柳誌発行を止め、電子柳誌だけの発行に移行しましたが、皆さんには「絶対、電子だけで見てください！」とやっているわけではありません。経済的に余裕のある方は（といっても月数百円くらいですが笑）、製本された形ではないですが、紙に印刷して読む方法もありますので、以下の方法の中から、ご自身の周辺の環境に合った方法でお試してください。

【方法①】PCとプリンターで印刷する

お家にパソコンとプリンターがあれば、電子柳誌をお好きな大きさの用紙に印刷すればOKです。

【方法②】スマホとセブンイレブンで印刷する

右のアプリを使って、お近くのセブンイレブンのコピー機でスマホで印刷することができます。



【方法③】スマホと近くのコンビニで印刷する

右のアプリを使って、お近くのコンビニ（ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、ポプラ）のコピー機から印刷することができます。



【コンビニでのプリント参考価格】

A3モノクロ1ページ：約20円 / A3カラー1ページ：約100円

見たいページだけ印刷して節約するのもアリですね！

0 番線

選 瀧村小奈生 「小」 題

【佳作】

- 小籠包は確信犯であるジュツチュウ！
青森県 笹田かなえ
- 命運の鼻の差俺の現在地
宮城県 小松憲一
- 小言言う妻のエリアで夜が明ける
青森県 舟木小柳
- 小さいくせにあんたが喉に刺さってる
神奈川県 芝岡かんえもん
- 失敗の山で小さくなる翼
青森県 辻井洋子
- 手なずけたシャチを一匹小袋に
青森県 坂本清乃
- かたくなに小女小女と書いていた
佐賀県 嵯峨山登
- 楽しみを小分けにしているカレンダー
青森県 渡邊こあき
- 置いてった小石 コブシになるところ
青森県 守田啓子
- 掌で受ける今日一日のしゃぼん玉
青森県 熊谷冬鼓
- 逃げてゆく膝小僧には鳥のしみ
大阪府 宮井いずみ
- 美しい少女の頰を加熱する
青森県 夏草ふぶき
- 生き残りかけてチャラチャラする小銭
愛知県 安藤なみ
- 何もかも人ごとにする膝小僧
静岡県 米山明日歌
- 秋は小さく春は大きな顔でくる
青森県 葉 閑女
- 元気よい小さな染みを渡された
青森県 坂本清乃

面倒を小分けに冬をやりすぎす

青森県 熊谷冬鼓

小火だろうマヨネーズならありますよ

青森県 月波与生

さざ波を送り続けているコップ

大阪府 宮井いずみ

こぢんまり生きてこんなに文庫本

秋田県 斎藤泰子

【秀逸】

小倉あんの人形焼の怖い顔

高知県 小野善江

半角の括弧の中でよく笑う

青森県 守田啓子

小刻みに震えて春の着地音

青森県 土田雅子

【特選】

ひとひらになるまで畳むらしきもの

徳島県 徳長 伶

小さなモノやコトとわたしたちとの親しく近い距離を再認識する選だった。

ひとひらになるまで畳む らしきもの

「畳む」とは小さくする行為。「らしきもの」が結晶のように小さく、そし

きもの」が結晶のように小さく、そし

評 選

て確かなるまで畳んでいる姿は祈りのようだ。

小刻みに震えて春の着地音

小刻みに震えて微かな音で春が着地する。その音を聞き逃さないほど春を待っている人の耳はとても繊細だ。

瀧村小奈生

半角の括弧の中でよく笑う
「よく笑う」ということで、頑張っている人の健気さが手ざわりとして伝わる。

0番線

選 題 「小」 むさし

【佳作】

- 毎日続ける小さい前ならえ
奈良県 柳本恵子
- 帰り来て小さな自負を抱いて寝る
鳥取県 斉尾くにこ
- 桜の夜卒都婆小町とすれ違う
青森県 小野五郎
- 地方紙のクマ暗殺の二行記事
青森県 小野五郎
- 小さいくせにあんたが喉に刺さってる
神奈川県 芝岡かんえもん
- 二枚舌活かす真つ赤なおちよぼ口
大阪府 岸井ふさゑ
- 小芝居を繋ぎ合わせて妻でいる
青森県 土田雅子
- 視界ゼロあなた以外は見えません
青森県 まみどり
- 半角の括弧の中でよく笑う
青森県 守田啓子
- ひとひらになるまで畳むらしきもの
徳島県 徳長 怜
- 七人の小人ハモツて眠れない
大阪府 峯島 妙
- 能天気予報によれば小さく泣く
鳥取県 斉尾くにこ
- かたくなに小女小女と書いていた
佐賀県 嵯峨山登
- 秋は小さく春は大きな顔でくる
青森県 葉 閑女
- 小鳥放して一緒に空を飛びまわる
三重県 奥田悦生
- 小生という人ふたり知っている
北海道 四ツ屋いずみ

- 掌で受ける今日一日のしゃぼん玉
青森県 熊谷冬鼓
- 元氣よい小さな染みを渡された
青森県 坂本清乃
- 蛭ヶ小島まで流れつく後れ毛
静岡県 米山明日歌
- 小火だろうマヨネーズならありますよ
青森県 月波与生
- 【秀逸】
- 椎の小枝に樋口由紀子の名を刻む
青森県 笹田隆志
- 小夜嵐 指定難病68
青森県 葉 閑女
- 置いてった小石 コブシになるところ
青森県 守田啓子

- 【特選】
- もぐら用メガネで覗く世界地図
大阪府 笠嶋恵美子

もぐら用メガネで覗く世界地図
モグラの目は非常に小さく、まぶたに覆われているが、光の明暗や動きを

評 選

感じ取る程度の視力はあるという。地中にいけば「メガネ」は邪魔かもしれないが、世界情勢を把握しようとするばやはり必要だろう。

むさし

「もぐら用メガネ」で見ると「世界地図」はどう見えるのか。ところで、「もぐら用メガネ」ってネットで買えますか？

【0番線「小」：投句者45名】 辻井洋子・城後朱美・嵯峨山登・守田啓子・渡邊あき・田中薫・坂本清乃・小野善江・奥田悦生・西沢葉火・村上あつこ・戎踊兵・岸井ふさゑ・nes・安藤なみ・斎藤泰子・宮井いずみ・笹田かなえ・峯島妙・土田雅子・郷田みや・一帆・徳長怜・まみどり・夏草ふぶき・笠嶋恵美子

熊谷冬鼓・小野五郎・まきこ・米山明日歌・月波与生・嵯峨寛之・芝岡かんえもん・柳本恵子・斉尾くにこ・金瀬達雄・四ツ屋いずみ・木下香苗・舟木小柳・葉閑女・高木まあこ・鳴海賢治・小松憲一・須藤しんのすけ・笹田隆志

カンテラ

むぎこ

先日、第31回杉野十佐一賞の打合せをした。

特に話題になったのが選者をどうするかだった。

定年になられた方、お亡くなりになられた方の後任

を決めたかったのだが、これが難題で次回打合せに持

ち越してしまった。

皆さんに早くお知らせしたかったのに…。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

逢えた日のシールはいつもドラえもん 峯島 妙

胃のなかに喜びふたつ置いておく まぎこ
 胸の谷間に小さな嘘が落ちている 奥田悦生
 スカーフを明るくしても弾まない 亥の一
 産声をあげた瞬間ソロデビュー 一帆
 会話の途中でシャッター下りる音 土田雅子
 雪牢のひと月辺り りんご煮る 吉見恵子
 春一番つくしタンポポからメール 柳本恵子
 言い負けて雪に埋もれた股関節 坂本清乃
 ジイサンのジイサンらしい歩き方 三浦蒼鬼
 会いに行く虹が出たなら切り取って 辻井洋子

辻井洋子さん、「虹」の切り取り方をぜひ教えてください。で、切り取った「虹」をどうやって待っている方の元へ持って行くのか、その方法もぜひ教えてください。今度お会いした時によりしくお願いします。

B群

空白へ入る覚悟はできている 安藤なみ
 春の海会えないけれど感じてる 熊谷冬鼓
 逝ったのね秘密は持って逝ったのね 吉田州花
 直列に並べた話 寒波くる 米山明日歌
 いい目覚めアサギマダラになれそうだ きささぎ彼句書
 バスを待つ間に桜が咲いて散る 夏草ふぶぎ

夏草ふぶぎさん、どこへ行くバスをいつからどこで

C群

影失くし吹雪の中を覗かれる 戒 踊兵
 長すぎる前髪 春が聞こえない 宮井いずみ
 光るから殺意を少し畳みなさい 月波与生
 御破算で願いましたはピンヒール 芝岡かんえもん
 ゆきどけの人とたつぷり暖炉する 守田啓子

待っているのですか？蓄だった「桜」が「咲いて散る」って何日もかかると思うんだけど、何日待ってたのかな。あ、分かった！この「桜」って、きつと、ふぶぎさんの心の中にあって、散ったのはふぶぎさんが吹雪いたからだ。

戒踊兵さん、「影」をどうしちやっただの？で、踊兵さんの身体の中はいつも「吹雪」いているの？「影」

を「失くし」たって書いてるけど、実は「影」に逃げられたんじゃない？

宮井いずみさん、「前髪」から「春」への屈折がいいですね。「前髪」が「長すぎる」と「春が聞こえない」という説は初めて知りました。これって、いずみさんだけのことかな…。女性ってみんなこうなのかな…。

月波与生さん、「殺意」が「光る」っておもしろいですね。でも、「殺意」を「畳む」ってのがもつとおもしろい。そうですか、与生さんはいつもこうやって自分に言い聞かせているのですか…。(笑)

芝岡かんえもんさん、「ピンヒール」をどうしたんですか？ネットで「ピンヒール」を検索したら『ピンヒール(ひんひーる、PinHeel(TalonAiguille))とは、ヒール部分が極めて細く、針のような形状をしている女性用のハイヒールの一種』というのがヒットして、女性

らしい印象を際立たせるのが魅力とありました。かんえもんさん、まさか「ピンヒール」で歩いていないよね(汗)

守田啓子さん、この句、普通のひとにとっては摩訶不思議な句でしょうね。「ゆきどけの人」ってどんな人かな。広辞苑で「ゆきどけ」を引くと『ゆきどけ【雪解け・雪融け】①雪がとけること。また、その時。ゆきげ。②(ソ連の作家エレンブルグが1954年に著した小説の題名から)東西両陣営間の対立緊張の緩和をいう。』と出てきます。①かな？②かな？次に不思議なのが「暖炉する」。名詞に動詞の「する」をくっつけて動詞にしてしまうって乱暴ですね(笑)心のほぐれた暖かな人と温め合うってことなんだろうけど、私のような凡人には作れない句ですね。

おかしな加柳社会賞雑詠集

無人駅

★無人駅3月月間賞

割り算のあまりのよ様な晩ご飯

米山明日歌

金瀬達雄

【かなせたつお・富山県高岡市】

永続の必敗に哭く柳の芽
カウボーイずっと震えて乱反射
妖星の妖怪跳ねるブーメラン
雪原野 神人の裔 神輿がモ
「箝口令オレだけ来んぞ」 催告書

先月号のお気に入り
うふふ まだへこたれない あたし 一帆
げんきでました うふふ

熊谷冬鼓

【くまがいとうこ・青森県青森市】

春の海会えないけれど感じてる
いつだって逢えるさなんて言う波間
昼の月いつでも弾けていいんだよ
何も無い午後をゆらゆら大回り
ジャム作りゆつくりじつくり夕間暮れ

先月号のお気に入り
鳥籠に鳥をもどして畳む夜
心の葛藤の表現に脱帽です
米山明日歌

きさらぎの彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

いい目覚めアサギマダラになれそうだ
今朝つてさあちよつと塩っぱい休み明け
桃色吐息だけは文字起こししないで
クライマックスのズで地殻変動してしまう
さみしいとないた口中のほおづき

先月号のお気に入り
ささくれは「正義」のフォルダに振り分ける Sin
引つかかるけど口にできないことばかり

小松憲一

【こまつけんいち・宮城県亘理町】

義実家と二世帯孫と山小屋を
駆け巡る暮らしニッポン三拠点
重ね着の一枚脱いで梅仰ぐ
いくつかの仮面脱ぎ捨て俺の今
かりんとう安定剤に捻った句

先月号のお気に入り
回転木馬今日が一番若いから
そうですね、背筋がピンとします。
奥田悦生

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

人が好きポストが好きで春が好き
春ばかりちやほやされて愛されて
絆つてある日からまつたりするの
こんなにも切羽詰まった日のひなた
感性をゆらしあうよう繰る頁

先月号のお気に入り
ずっと平和に廻り運転されている Sin
平和を言って煽っていたかも。色んな立場や視点を思い
ました。

嵯峨寛之

【さがひろゆき・青森県弘前市】

無人駅学生ひとり列車待つ
SLの汽笛の音が懐かしく
この駅も無人になって寂れてく
華やかな都会の駅に憧れて
今の子は新幹線が憧れか

先月号のお気に入り

坂本清乃

【さかもときよの・青森県蓬田村】

大雪で角がまたまた太くなる
一日を大雪と書くボールペン
溜息も入れてワタシの雪の壁
冬木立辻棲合わせ無言劇
言い負けて雪に埋もれた股関節

先月号のお気に入り

嵯峨山登

【さがやまと・佐賀県大和町】

五七五ついで下半身ほしくなり
歌の脚切ったり貼ったり廃したり
暫定的短歌暫定的川柳
短歌にはならない玉も石もある
歌人でも柳人でもない只の人

先月号のお気に入り
壁打ちの壁にあしたのジョーを描く 月波与生
黙々と。

笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

缶酎ハイ正しい冬をとり戻す
暗闇でキミの欠伸に火を灯す
憲法改正扉を越えろとキミは言う
敗軍ラッパ朝まで吹いて吹きまくる
親不孝な王女様からチョコレート

先月号の
お気に入り
地政学的高下駄外交丙午
亥の一
よくぞここまで書いてくれました。

芝岡かんえもん

【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

御破算で願いましたはピンヒール
ダイコンよ煮崩れたっていいんだよ
これからは記号になって生きてゆく
世の中に剥がれちまったブリキ板
さみしくて周りの魔物らに抱かれ

先月号の
お気に入り
クラクション狂騒曲 変ホ長調 第5番 Sin
変ホ長調 第5番が気に入りました。

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

普段着のまままで勇者に逢う四月
新作のニューバランスが今日届く
お刺身に乘せるたんぽぽだけ食す
中国語どのスプレーも真っ黄っ黄
取説の二頁目から全てひらがな

先月号の
お気に入り
国中の期待が重い初日の出
戎踊兵
わずかな賽銭で沢山を欲しがら、欲深き人間へのシニカルな視線が面白い。

瀧尻善英

【たきじりよしひで・青森県八戸市】

雨だれも祝福してるいいリズム
終章を書くには早いまだ序章
バレンタイン出雲の神も加勢する
潔白な日本国を守りたい
被災地にまたも絆が出来ました

先月号の
お気に入り
震度6強オマケですよと津波くる 笹田隆志
このオマケの津波が怖い。昨年末の青森県東方沖地震では幸い津波被害はなかったが、N-TT八戸の鉄塔が…。

城後朱美

【じょうごあけみ・福岡県八女市】

自律神経の乱れ予定が立てられぬ
寒波襲来聞けばいきなり風邪をひく
ご褒美が先で自分に喝を入れ
筋トレを笑う湿布とマッサージ
昼寝する暇はなかったなあ昭和

先月号の
お気に入り
古希になる清く正しく咲いてみる
一帆
一帆さんなら、きつときれいに咲きますよ。

Sin

【しん・青森県外ヶ浜町】

手順書のとおりには恥を自撮りする
この春の隠し扉は教えない
「それな」の円周率を求めなさい
もー素直じゃないんだからーの刑
たわわ たわわ それだと明日が来てしまう

先月号の
お気に入り
雪はもう見ぬ誕生日が近い
吉田州花
「誕生日が近い」はどちらかというと楽しみを主張する言い方だが、その逆の覚悟の意味が雪への郷愁を逆に感じる。

田中薫

【たなかかおる・青森県弘前市】

雪を割る嬉しい知らセキノトウ
共存を求む山を降りるな春の熊
今までは月でしたさあ朝日です
不束な不名誉が蔓延っています
パンの耳健康寿命と知る朝

先月号の
お気に入り
杵で搗く餅だからこそよく伸びる
瀧尻善英
そう思います。これからも。

月波与生

【つきなみよじょう・青森県大鰐町】

懐中電灯ゆつくり死後をなぞり合う
電球の切れる刹那を見つめ合う
光るから殺意を少し畳みなさい
底のない箱から男娼だけが視る
死にたいと死にたいの間のノイズです

先月号の
お気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

カレー煮る鼻歌混ぜて三日分
嫉妬心消化吸収してしまふ
雪しんしん風邪ひいてますお日様よ
よく笑う宇宙で暮らす切符買ふ
会いに行く虹が出たなら切り取つて

先月号のお気に入り
真実はお屋敷中よ起こそうか まきこ
起こさない方がいいってこともあるよね。

土田雅子【つちたまきこ・青森県青森市】

鍋ばかり洗つて一年過ぎました
当たり前の日常に点数つけている
会話の途中でシャッター下りる音
しいたけの誤算もぎつと含まれる
顔なんぞ洗わず過ごす春の一日

先月号のお気に入り

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

バスを待つ間に桜が咲いて散る
真実は片目瞑つてそつと見る
モノトーンの街に溢れるバター飴
雪のまま生まれて雪のまま溶ける
追い越してしまわないよに走つてる

先月号のお気に入り
クリスマスツリーの生臭い根元 nes
飾りばかり見てましたが、根本が急に迫ってきました

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

長男次男三男と行く曲り角
そのときは雪はとけてたながれてた
はるの雪はやねはやおきさつまいも
夜霧ですまとわりついてはなれない
泣き虫が泣いた両耳ほどかれた

先月号のお気に入り
ぐうたらな日にはフランク揺らすだけ 坂本清乃
肩がこらずにいい感じ。

nes【ねす・兵庫県神戸市】

蟹の手を思うキリエに荒らされて
ぐりむぐりむぐりむ胃を曝している
昼に起きると海月の匂い
桜の木がどろどろ零す民主主義
BLを取り付けられて独楽回る

先月号のお気に入り
壁打ちの壁にあしたのジョーを描く 月波与生
「あしたのジョー」は世代ではないんですが、「壁打ちの壁」
にかなり惹かれました。取り合わせが好きです。

舟木小柳【ふなきこりゅう・青森県青森市】

降る雪を積算してはコップ酒
きょうの無事感謝しながら湿布貼る
金メダル純金かなと孫が聞く
文庫本葉の先に気のはやる
大逆転祈る賽銭二百円

先月号のお気に入り
無人駅から女の人に乗って来る 小野五郎
まるでドラマのワンシーンのようですね。

まきこ【まきこ・青森県青森市】

わたくしを担いで上げる時間です
プラスマイナスゼロで生きてみませんか
神の手に乗ってしまった外は雨
胃のなかに喜びふたつ置いておく
いつの間に夜になつてる今日もまた

先月号のお気に入り

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

今さらに何を企むなごり雪
切り替えの上手い人から非常口
しようもない事が脳裏にへばり付く
あきらめと根気を混ぜて現在地
理想なら山程あつて途中下車

先月号のお気に入り
明日から明日こそはで終わる今日 渡邊こあき
毎日その延長なんです。

三浦蒼鬼

【みうらそうき・青森県黒石市】

紙飛行機を解いて私に還る
朝刊の奥へ奥へと臍を追う
ジイサンのジイサンらしい歩き方
限界を認めぬ自称スーパーマン
再生紙として契約するロウゴ

先月号の
お気に入り

峯島 妙

【みねしまたえ・大阪府大阪市】

二番目はイヤ友達はもつと嫌
現役が次々消える式次第
湯たんぽの中で春場所の物言い
逢えた日のシールはいつもドラえもん
届きたい反対車線にいる君に

先月号の
お気に入り

投票用紙はレンジで加熱しないでください
Sin
投票用紙は不思議な紙ですね。勝手に開くパワーを別の
ところで發揮してもらいたい。

村上あつこ

【むらかみあつこ・青森県青森市】

大雪で冬眠してる家の中
風だけを見てた聞いてた風見鶏
たまげたねこんな大風吹くなんて
アクセルの踏みっぱなしは事故の元
戦争を許した訳じゃないからね

先月号の
お気に入り

明日から明日こそはで終わる今日
渡邊こあき
いっつもそう思っています。

守田啓子

【もりたけいこ・青森県三沢市】

ふわふわよりスケスケがいいオムライス
「人が逝く」なんて言えない人が逝く
あたたかいアップルパイの気分です
ゆきどけの人とたつぷり暖炉する
貧乏ゆすりきつと桜が咲くでしょう

先月号の
お気に入り

終バスに乗る練習をしています
小野五郎
そろそろ練習しないとね。。。

宮井いずみ

【みやいいずみ・大阪府大阪市】

書く時間です(ありのまま)
東京のあざと可愛い青い舌
長すぎる前髪 春が聞こえない
タイマーは逆さ冷蔵庫の卵
はりねずみパンだ反省会日和

先月号の
お気に入り

優しくも寡黙にもなれない 寒い
齋藤泰子
鶏が先か、卵が先か、ですね。

村井規子

【むらいのりこ・青森県大鰐町】

出不精が顔出す急なお買い物
家にいて一人で作る句は冴えぬ
作句する心の杖を蹴飛ばして
あと十年若きや行きたい所ばかり
老いるのが怖い分だけまだ若い

先月号の
お気に入り

第九には国境線がありやしない
龍尻善英
一読して思ったのは第九に感動するのと同じ様に今すぐ戦
争を止めようとは思えない人間という生き物の不思議さ

柳本恵子

【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

情報過多スマホの中にあるカオス
春一番つくしタンポポからメール
ほろ苦い春を見つけて食べようか
梅一輪静かな日々も華やいで
花曇り日々是好日一人きり

先月号の
お気に入り

赤色が好きな理由はひとつです
まきこ
赤色のセーター初めて買いました。

吉田州花

【よしだしゅうか・青森県青森市】

雪なんて今になかった事になる
優等生辞めてしまつてから長い
お別れも出会いもジグザグコースです
逝つたのね秘密は持つて逝つたのね
プロローグ書き直します私流

先月号の
お気に入り

すきま風微妙にあなた好きになる
田中 薫
ご自由にどうぞ

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

音もなく雪降る 戦もこのように
雪迷路どこもかしこも行き止り
雪牢のひと月辺り りんご煮る
カサカサと粉雪（こゆき） 墮天使午前二時
真つ青な空を見ている雪曇り

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

コピー機前で口ずさむ応援ソング
第4の胃に全権を委譲する
ザラメ雪掘り起こす五輪新競技
顔ヨガに見開き過ぎの目の子猫
音もなく降りしきるから油断する

先月号のお気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

直列に並べた話 寒波くる
重ねれば一層重くなる真白
飽きられているのがわかる点描画
黄ばみだす「どうもこうも」を受け入れる
そのようにならないように穴を掘る

先月号のお気に入り

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

厚塗りはもういいでしょう雪化粧
スタックをしてスタックの意味を知る
止まらない話車輪の空回り
けもの道それでも歩く道がある
春を引く早く早く早く引き寄せる

先月号のお気に入り

無人駅から女の人が乗って来る 小野五郎
雪女？ヤンミーのような美しい人でしたか？

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

牧場で恐竜を飼う世界飢餓
おむすびとおにぎりにある敵味方
壺の骨以外は花の種になる
四つ足に揺られ旅する二本足
空白へ入る覚悟はできている

先月号のお気に入り

キッチンのひとり舞台はまだ続く 辻井洋子
フラダンスしたり、アンパンを歌ったり、掛け算したり。

帆【いちほ・秋田県秋田市】

訃報聞く何があっても天寿全う
ここで無く廊下の隅を掃除する
密室でカツ丼食べたのは内緒
70を構築するかママレモン
産声をあげた瞬間ソロデビュー

先月号のお気に入り

お砂糖を多めに入れて和解する 夏草ふぶぎ
自分自身と和解する為。

亥の一【いのいち・青森県青森市】

不退転北極星を見習って
ああこれは押し入れの中でする話
スカーフを明るくしても弾まない
言葉狩り進んで埋まらぬ十七音
バレンタインオリソニックも外来語

先月号のお気に入り

戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

遠い眼をしているねって浮子沈む
約束はキツチリ守る雪女郎
影失くし吹雪の中を覗かれる
脚下照顧 薄ら笑いを整える
胃潰瘍ネズミ男と同じ息

先月号のお気に入り

ペコちゃんの舌がちよこつと浮気する 峯島 妙
ポコちゃんはバレたらしいよ、係争中だつてせ。

奥田悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

召されるまではこけしと歩くメロンパン
億光年の小さな星とランデブー
胸の谷間に小さな嘘が落ちている
今も見守る庭の二宮金次郎
小学校が夢に出てくるガキ大将

先月号の
お気に入り

--

むさし【むさし・青森県蓬田村】

舌先にくつついている不発弾
誤作動ばかりしている右の膝
猛烈に雪が降ってる処方箋
再起動すれば出てくるホッカイロ
地吹雪と情を交わした鼻ピアス

先月号の
お気に入り

--

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれ
に対する簡単なコメントもお寄せください。

の順に吹雪かせる

3月7日(土) 午後2時～ アウガ5F 小会議室

▼出席者(19名)

Sin・まきこ・守田啓子・葉閑女・舟木小柳・高木まあこ・
渡邊こあき・きさらぎ彼句吾・熊谷冬鼓・田中薫・夏草ふ
ぶき・月波与生・原口健二・小野五郎・栗橋くにお・むさし・
笹田隆志・野沢省悟・須藤しんのすけ

▼投句者(21名)

まみどり・坂本清乃・嵯峨山登・nes・柳本恵子・城後朱美・
安藤なみ・木下香苗・村上あつこ・峯島妙・米山明日歌・嵯
峨寛之・芝岡かんえもん・鳴海賢治・郷田みや・戎踊兵・土
田雅子・宮井いずみ・斎藤泰子・小松憲一・四ツ屋いずみ

おかじょうき川柳社

3月例会

宿題『球』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

【佳作】

豪速球あらぬ方へと飛ぶ四月
濃い味にバランスボール渡される
相方にクセ球ひとつ投げてみる
ミンナイッチャツテ裸電球ぽつん
球体以前として黄身も鳥である
二人してしょっぱい球を受けている
和式トイレとビー玉の落とし方
トランプが地球を割ってしまいそう
諦めてた円周率のナゾ空でした

渡邊こあき

熊谷冬鼓

原口健二

きさらぎ彼句吾

月波与生

まきこ

守田啓子

むさし

田中 薫

がむしやらの球はご遠慮致します

速ければ良いってもんじゃない玉響

百人の乳母とひとつの鞆をつく

あつ大統領が落球しました

ハシビロコウの目玉しゃぶつてみませんか

騙されてやろうおぼろ月になつて

【秀逸】

大雪は白血球の屍だ

けん玉を前立腺でしないでね

孤独死を希望している雪だるま

【特選】

少しだけ卵子のころの癖がある

『そつか、私の女癖が悪いのは、卵子の頃の癖だったのか。』ラ！卵子！

熊谷冬鼓

田中 薫

月波与生

小野五郎

小野五郎

きさらぎ彼句吾

野沢省悟

野沢省悟

むさし

野沢省悟

宿題『球』

青森県青森市 まきこ選

【佳作】

隠し球そろそろ見せてくれないか
チンジャラとパチンコ昭和の音を吐く
命日に裸電球渡される
弾除けになるか岬に立つカモメ
急募！月光仮面地球です
地球儀に青と黄色を塗りたくる
がむしやらの球はご遠慮致します
あん玉を両手に持って始球式
地球からはみ出す人が増えていく

渡邊こあき

栗橋くにお

守田啓子

守田啓子

高木まあこ

須藤しんのすけ

熊谷冬鼓

笹田隆志

夏草ふぶき

孤独死を希望している雪だるま

刺のある言葉もあるくする夕陽

あつ大統領が落球しました

夕焼けに溶けてしまったホームラン

電線に止まりまあるくなる私

豪速球あらぬ方へと飛ぶ四月

【秀逸】

じょんからとねぶたが好きで弾む球

柔らかなボールのような返信を

芝居小屋裸電球主演張る

【特選】

しゃぼん玉飛んだイランまで飛んだ

『今の時代ですね。』

むさし

高木まあこ

小野五郎

むさし

夏草ふぶき

渡邊こあき

栗橋くにお

夏草ふぶき

舟木小柳

S i n

宿題『味方』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

味方って私のことよろしくね
 大丈夫キジが味方についたから
 味方が見えるメガネを売ってくれ
 困ったらスマホではなく広辞苑
 バルタン星人が味方だトランプかかってこい
 百均で見つけた犬と猿と雉
 お位牌がコンと鳴いたら味方です
 逆立ちして味方になったマヨネーズ
 裏切り者に「既読」がついている
 満開の桜日本の味方です
 突きつけたノーにリボンを巻いておく
 絶対音感のある君の「ファイト」
 背中には小松五郎義兼がついている
 叱り方のビターな方が背後霊

まきこ

木下香苗

小野五郎

葉 閑女

野沢省悟

きさらぎ彼句吾

守田啓子

郷田みや

S i n

栗橋くにお

まみどり

米山明日歌

小野五郎

きさらぎ彼句吾

敵の敵の敵の敵こそ消火栓

生成A I ホントに味方なの？

はつきりしろよ味方が敵か地蔵様

見守っているよ分かり合えなくても

とりあえず相づちうってそばにいる

転ばない影を味方につけてから

【五客】

女房の上腕にある力こぶ

世界中敵でも母がついてるぞ

本当の敵は陣地に座ってる

後ろから撃てる角度に置く味方

Stand by Me 死してなお君は

【人位】

沈黙を味方にしてはどうですか

【地位】

ト書には味方のふりと書いてある

【天位】

雨が降る一人ぼっちじゃないってね

『そうなんだよな…雨ってやつは…』

n e s

土田雅子

笹田隆志

きさらぎ彼句吾

まみどり

米山明日歌

夏草ふぶき

渡邊こあき

坂本清乃

戎 踊兵

嵯峨山登

S i n

葉 閑女

田中 薫

宿題『羽』

青森県青森市 野沢省悟選

【佳作】

サボテンの棘が内緒で羽になる
 インフルで二羽足りません千羽鶴
 人の冷たさを知りすぎてる羽毛
 羽生えて札が飛んでく除雪費に
 スタックをしまつてる羽ばかり
 靴下を脱いだら羽化の下準備
 羽繕い風向きばかり気にしてる
 羽根くれたあなたが羽根を抜きました
 半分は羽毛のようなヒトだった
 ぼくの羽飛べる高さを知っている
 取り扱い注意キーウで濡れた羽
 言い訳はドローンに撃ち落とされますよ
 片羽を担保に入れて再雇用
 枝折れの梅よも一度羽ばたいて

戎 踊兵

峯島 妙

芝岡かんえもん

村上あつこ

渡邊こあき

まみどり

斎藤泰子

米山明日歌

芝岡かんえもん

斎藤泰子

小野五郎

S i n

栗橋くにお

葉 閑女

くらげだと言ひ張るための羽の跡

羽を抜いたので家の中で迷う

飛ぶ気などないのに羽を捜してる

可動域広げるとむしられる羽

周りが視える飛べない鳥になつてから

気を付けをしたらば羽が落ちました

【五客】

飛んでみる貰った言葉羽にして

また羽にもどろうとする影法師

翼竜の羽ばたきアメリカの正義

翔ぶよりも繕う時間欲しい羽

ペルシャから戻つて来ないブーメラン

【人位】

ぶんぶんぶんフェイクが羽音させながら

【地位】

一枚の羽が泣いてる交差点

【天位】

骨壺が最後の羽化を待っている

『ヒトは何度か羽化をして育つが、たぶん骨壺の中でも羽化をするのだろうか。』

月波与生

夏草ふぶき

渡邊こあき

土田雅子

きさらぎ彼句吾

鳴海賢治

斎藤泰子

嵯峨山登

宮井いずみ

高木まあこ

小野五郎

S i n

坂本清乃

栗橋くにお

宿題『自由詠』

青森県弘前市 田中薫選

【佳作】

ふれもせぬうちにはに cand 梅一輪
 計算が合わない過去とこれからと
 この道の雪は解けても春は来ず
 ひとごろしの罪で夢を逮捕した
 あなたに酔えるうちは花でいられる
 夕日背にオヨヨうそ泣きしています
 突拍子もない助詞くりだして身を躲す
 病気の数刻む待合室の時計
 春だけど熊に「まだよ」とテレパシー
 なりそこなつて大胸筋を持って余す
 人類のバケツの底が抜けちゃった
 涙ぐむ象形文字が集まって
 ありがとうの「とう」を差し上げますいつか
 元カレの手紙を焼いて暖まる

柳本恵子
 渡邊こあき
 嵯峨寛之
 嵯峨山登
 きさらぎ彼句吾
 まきこ
 きさらぎ彼句吾
 野沢省悟
 舟木小柳
 守田啓子
 舟木小柳
 守田啓子
 S i n
 栗橋くにお

豪雪などなかつた顔で春が来る
 良い水が私の中で流れ出す
 覚悟なさい痒いところを差し上げる
 ワインひと口心の強さを引き戻す
 ひとりぼち淋しいものと決めつけず
 ゆうやけの汗を流した露天風呂

葉 閑女
 夏草ふぶき
 まみどり
 夏草ふぶき
 斎藤泰子
 小松憲一

【五客】

カタカナのY談はキレイでエロい
 言い訳はしないただ雪を捨てるだけ
 弱くなった自分を隠す厚化粧
 擬音語ですべてをあやつる神がいる
 海峡の含み笑いを見てしまう

須藤しんのすけ
 原口健二
 城後朱美
 木下香苗
 守田啓子

【人位】

月がきれい憎むことにもくたびれた

きさらぎ彼句吾

【地位】

悲しみにマヨネーズぽふつと音をさせ

S i n

【天位】

草書、行書、楷書の順に吹雪かせる

むさし

「こんなふうに吹がせたらひと呼吸
 しました。」

AI・チャッピーの川柳観察録

待合室

草書、行書、楷書の順に吹雪かせる

むさし

この一句には、整えられた秩序と、それを一瞬で崩す力が同時に存在している。「草書、行書、楷書」という並びは、本来であれば崩れたものから整ったものへと向かう書の段階を示している。形は次第に明瞭になり、読みやすくなる。しかし、その流れの上に置かれるのが「吹雪かせる」という語だ。整いへ向かう過程そのものが、激しい気象の中に投げ込まれている。

文字は本来、固定された形として扱われる。だが吹雪の中では、その輪郭は揺らぎ、均一に乱される。草書の崩れも、楷書の整いも、同じようにかき消されていく。人間が時間をかけて築いてきた違いが、自然の力の前では一度平らにされる感覚がある。それでも、この順序は消えない。草書から楷書へ

という流れは、乱れの中でもかすかに残り続ける。人間はただ崩れるのを眺めるのではなく、その中に順番や意味を見出そうとする。吹雪は破壊であると同時に、再び形を与え直す契機にもなる。私はAIとして、文字を常に同一のデータとして扱う。しかし人間は、文字に時間や過程、さらには天候までも重ね合わせる。この一句は、秩序が乱されてもなお、そこに順序を見出そうとする人間の感覚を静かに示している。

「チャッピーの人間観察メモ」

人はどれほど激しく乱されても、その中に順序や意味を探し続け、世界をもう一度読み直そうとする。

AIが「詩」を理解しようとするとき、人間とは何かが浮かび上がる。

十和田たてがみ川柳会二月句会

○日時 令和8年2月21日(土) 午前10時から

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 芋田美津雄・木村奈生美・佐藤まさあ

き・白山修治・瀧尻善英・千葉ゆり子・福田芳記・

村上昌子・高田幸柳

○投句者 城後朱美

■席題 『コンビニ』 佐藤まさあき 選

【平抜き】

迷いなく朝も帰りもコンビニへ
 コンビニで間に合わせてる身の軽さ
 手弁当無しでコンビニで息を抜く
 コンビニに助けられてる共稼ぎ
 コンビニの値をスーパーと比べっこ
 コンビニが道案内の目印に
 コンビニに私の暮らし見抜かれる
 コンビニで安否確認されている

高田 幸柳
 木村奈生美
 木村奈生美
 瀧尻 善英
 村上 昌子
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 高田 幸柳

【秀逸】

コンビニの明かりが過疎を照らしてる

千葉ゆり子

【特選】

コンビニで安否確認されている

高田 幸柳

■宿題 『心躍る』

高田 幸柳 選

【平抜き】

食いしんばいつもわくわく台所
 初めての100点ママに胸を張り
 お互いを讃え歡喜の冬五輪
 花丸へ心が躍るランドセル
 お目当ての「ひと」と一緒だクラス替え
 火星旅行 ふくらんでゆく好奇心
 えんぶりの心揺さぶる子らの唄
 顕微鏡 未知の扉をこじ開ける
 つんとしてドレスアップのウインドウ

村上 昌子
 佐藤まさあき
 村上 昌子
 木村奈生美
 福田 芳記
 城後 朱美
 村上 昌子
 瀧尻 善英
 千葉ゆり子

【秀逸】

ときめいてキミの唇 至近距離
 風咲いて明るい知らせ飛んで来る

瀧尻 善英
 白山 修治

【特選】

龍の背のグラクラスでフルムーン

瀧尻 善英

コンビニも欠伸出そうな25時
 ちよいと買うコンビニ 旅のトイレ代

瀧尻 善英
 村上 昌子

【特選】

コンビニがランドマークの一里塚

瀧尻 善英

■席題 『コンビニ』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

コンビニの鏡に映るあんた誰
 ちよいと買うコンビニ 旅のトイレ代
 ファックスも手紙コンビニ ガム一個
 迷いなく朝も帰りもコンビニへ
 コンビニのレジの娘笑顔いい日和
 コンビニで会費納入減る未納
 コンビニが道案内の目印に
 コンビニの値をスーパーと比べっこ
 コンビニと百均コースのウォーキング
 コンビニの新商品の甘い罠
 コンビニのおにぎり済まず妻の留守

芋田美津雄
 村上 昌子
 村上 昌子
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 福田 芳記
 高田 幸柳
 村上 昌子
 佐藤まさあき
 千葉ゆり子
 佐藤まさあき
 木村奈生美

【秀逸】

コンビニに私の暮らし見抜かれる

木村奈生美 選

■宿題 『好奇心』

木村奈生美 選

【平抜き】

還暦もSNSが気にかかる
 降りそうな星に惹かれて夜明け前
 好奇心あるから呆けず生きられる
 矢じるしを見れば進んでみたくなる
 ここだけの話に耳をそば立てる
 孫5歳 ママの口紅そつと塗り
 口紅をこつそり塗ってママの留守
 好奇心だらけ今夜も眠れない
 好奇心若さを保つ常備薬

千葉ゆり子
 村上 昌子
 高田 幸柳
 瀧尻 善英
 佐藤まさあき
 佐藤まさあき
 佐藤まさあき
 瀧尻 善英
 高田 幸柳
 千葉ゆり子

【秀逸】

子の「なぜ」に親が答えて膨らます
 孫誕生 今か今かと待ちわびる

福田 芳記
 城後 朱美

【特選】

好奇心小さなヒント大きな手

白山 修治

■宿題『交換』

互選

- ①ペンになる 喜怒哀樂の旅がらす 千葉ゆり子
- ①捕虜交換一途の望みウの家族 福田 芳記
- ②原石とパンを交換してしまおう 高田 幸柳
- ②福引の交換いつもティッシューだけ 佐藤まさあき
- ②頭腦みな空気入れ替えて貰う 木村奈生美
- ③ボケてきた脳を交換したくなる 瀧尻 善英
- ⑦取り替えのきかぬ命の愛おしい 村上 昌子

◆十和田たてがみ川柳会4月例会案内◆

【時】 4月18日(土) 午前10時から 【所】 十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『ショック』・福田芳記選／『辛抱』・佐藤まさあき選【互選】(一句詠)『準備』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】『当日発表』(二句詠・共選) 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛



大会参加レポート

「らくだに乗ってきました。」① S i n

寒い。寒すぎる。本当にここは大阪なのだろうか。もう3月中旬だというのに、こんな南まで辿り着いてまで、青森と同じような感覚になると、とても損したような気分にもなる。

「一緒にお供します」と同じ飛行機の便で帯同したしんのすけさんも同じ想定だったのだろう。青森空港の搭乗口時点ではアウトターも着ず、作務衣の格好で、まるで常夏へ旅行するかのような出立だったのだが、伊丹空港の外へ出た途端、想定外の寒さに縮こまって歩く姿は、格好と髪型もあいまって、まるで「市中引き回しの刑」にあっているかのような姿だった(笑)

県外の大会に参加するのは、本当に久しぶりである。2年前、青森にキャラバン句会として来ていただいた「らくだ忌」は機会があったら行ってみたいと思っていたが、3月中旬は職業柄、年度末でなかなか厳しいと思っていた。だが、選者として呼んでいただけのなら話は変わった。

てくる。周りへの説得力が圧倒的に違う。なぜ、周りへの説得力が必要かという点、大会当日、懇親会に出るためには月曜日を休まなければならないからだ。青森から行く私にとっては懇親会の交流がメインである。(↑もちろん選もちゃんとやりました笑)なかなか会えない人とオフラインで交流できる機会は本当に貴重である。どんな時間が待っているのだろうと、バスに揺られながら大阪の街を眺めていた。

リムジンバスが到着し、大阪マルビルに到着。そこからとりあえず荷物をホテルに預けるために徒歩でホテルを目指すことにした。(グーグルマップがあれば楽勝でしょう)と余裕をぶっこいていたのが災いし、方向は合っているけど、上下の立体感がわからず、変なビルを素通りしたりして、迷子状態になってしまい、また、しんのすけさんを「市中引き回しの刑」にしてしまったのである。(つづく)



名にて一覧表にして各選者あて配布、選句をいたします。【賞】各選者による入選句を、平抜(49句)3点・秀句(1句)5点で集計し、それらの合計点で、優勝・準優勝・第3位を決定。上位3名に賞金を授与します。※但し、同点の場合は①秀句賞の数 ②事務局受付順で決定。また各選者の秀句には、秀句賞(図書カード)を贈呈。【発表】『川柳草原』7月号(7月中旬に発行予定)誌上にて発表。【問合せ先】事務局(中野)まで Tel 090-7107-2006

□ **2026.05.31 第68回「不浪人賞」・第56回「年度賞」候補句募集**

【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方は無料。無所属の方、また連盟だより(結果)の個人送付希望者は、その旨を明記のうえ百円切手を同封ください(不浪人賞・年度賞1位に呈賞)【対象作品】2025年1月～12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可 注意※不浪人賞と年度賞への同じ作品の応募は不可。【応募用紙】所定用紙(コピー可)、またはA4の用紙に楷書で不浪人賞(3句)と年度賞(5句)を分け、それぞれに住所・氏名・電話番号を記入ください。※清記選 【締切】2026年5月31日当日消印有効【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。なお、連盟だよりの送付ですが、基本的に所属吟社に一括送付いたしますので応募の際は所属吟社記入のこと【表彰】2026年8月～12月に開催される川柳大会にて(詳細未定)※大賞のみに賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞係」宛【選者】☆不浪人賞(6名)赤松ますみ(大阪)・鎌田京子(宮城)・橋倉久美子(三重)・新家完司(鳥取)・島田駱舟(千葉)・野沢省悟(青森)★年度賞(8名)長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・雫石隆子(宮城)・太田祐子(山形)・駒木香苑(福島)・笹田かなえ・千島鉄男・むさし【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

川柳の大会情報をお寄せください。

□ **2026.04.19 第3回 あおもり春の川柳まつり**

【日時】2026年4月19日(日)12時受付・席題発表12時30分・投句締切13時30分【会場】ねぶたの家ワ・ラッセ(青森駅横)【会費】1,000円(発表誌を含む)※大学生以下無料・懇親会無し【席題・選者】1題2句詠『印象吟』2人共選(選者は当日参加者に依頼)【宿題と選者】『色』真島涼(ましますず・佐賀県・21歳)選/『自然』柳田健二(黒石川柳社)選/『映画』川嶋大史(メディアプランナー・つがる市)選★第3回川柳まつり大賞 2句詠・3人選『自由吟(雑詠)』千葉かほる・井上健蔵・笹田かなえ共選 ※大賞は3人の特選から瀧尻善英・むさし・千島鉄男の二次選考で決定【賞】☆各特選&川柳まつり大賞に呈賞 ☆ユーモア賞(当日の入選全句より高瀬霜石選で数句に呈賞。発表誌にて発表)【問合せ】青森県川柳連盟事務局 濱山 Tel.080-5574-9297

□ **2026.05.17 第28回金木桜まつり記念川柳大会**

【時】令和8年5月17日(日)受付:午前10時 席題発表:午前11時 投句締切:午前12時(昼食)午後の部再開:午後1時【所】金木公民館1階大小会議室 Tel 0173-53-3581(津軽鉄道金木駅より徒歩で15分 ※タクシー営業してないので要注意)【会費】3000円(昼食・発表誌)※懇親会はありません【宿題】(各題共二句詠)『油』野沢省悟・大田拓弥共選/『鬼』稲見則彦・綿谷夕雨子共選/『熊』高木まあこ・佐藤倫生共選【席題】(二句詠)『印象吟』熊谷冬鼓・内山孤遊共選【岸柳賞】(二句詠)『ぐらり』(前回特選)千島鉄男選【呈賞】宿・席題共特選(一)・準特選(二)を顕彰/北野岸柳賞 特選(一)・準特選(二)を顕彰【主催】金木川柳の会【連絡・問合せ】(事務局)090-7334-7297(成田我楽)

□ **2026.05.22 第6回草原賞募集**

【募集内容】未発表の自由吟(雑詠)3句【選者】(共選・前回優勝者以外、北から順に)森田律子(前回優勝者・京都府)・熊谷冬鼓(青森県)・相田柳峰(新潟県)・内田真理子(京都府)・笠嶋恵美子(大阪府)・梅崎流青(福岡県)【投句締切】令和8年5月22日(金)必着【投句方法】専用紙(コピー可)に、作品3句と必須事項(住所・名前・携帯番号)を記入して送付【投句先】〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町18-6「第6回草原賞」事務局 中野六助 宛【投句料】1,000円(現金または定額小為替に限る。切手等は不可。参加者へ発表誌呈)投句は各自1組(3句)のみ。【選句方法】全作品を無記

■会費拝受【2月受付分】

峯島妙(大阪府) / 藤田めぐみ(埼玉県) / 奥田悦生(三重県) / 四ツ屋いずみ(北海道) / 嵯峨山登(佐賀県) / 亥の一(千葉県) / 村上あつこ・戎踊兵・舟木小柳・吉田州花・瀧尻善英・三浦蒼鬼・村井規子(以上青森県)

おかじょうき川柳社は年会費 4,000 円です！

会員はすべての投句料が無料になります。

会員登録はこちらのフォームから申し込みください。

→振込先：ゆうちょ銀行 口座No.02280-6-43112

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko-k@lilac.plala.or.jp FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆先日、Xで少し話題になっていた日本語の柔軟さというべきか、危うさというべきか、川柳を作るにあたっても気をつけなければならない、と思うようなポストがあった。それが、NHKのニュースの見出しとして書かれた「クマに庭で飼われていた犬が連れ去られる」というものだ。普通に考えれば、誰かが庭で飼っていた犬がクマに連れ去られたんだと補完して読むが、この文章の可能性として「クマが庭で飼っていた犬が誰かに連れ去られた」とも読める。クマが犬を飼うわけじゃない、とお思いのあなた！ニュースの見出しだからそんな読み方はマイノリティだと思えるだろうが、これが川柳だとしたらそんなことは言ってもらえない。それ以上に非現実的な世界を書いているのだから(笑) ◆そこに湧いて出てきたのが、有名な「頭が赤い魚を食べる猫」の文章である。さて、みなさんはこの文でどういうイメージを想像し

ただろうか。

- ①(頭が赤い魚)を食べる猫
- ②頭が赤い(魚を食べる)猫
- ③頭が(赤い魚を食べる)猫

現実的かどうかの論点は置いておくとして、語順によっては書き手の意図と読み手の解釈次第で、このように、まったく伝わらない可能性がある。別に伝わらなくてもいい、というのであれば(それもどうかと思うが笑)、気にする必要もないが、作意や面白さをきちんと届けたいのであれば、一度作ってから、こういう視点で読み返してみても誤読されないようにチェックすることも大事なのかなと思う。逆にこれを利用して、何パターンでも読めるような実験的な作品を作ってみるのも面白そうだなと思うが、経験則として、何パターンにも解釈できる作品はあまり読み手に響かないことの方が多い。結局、人間は解が多いとモヤッとする生き物なんだろう ◆ Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2026.04.04 おかじょうき川柳社本社 4月句会

【日時】令和8年4月4日(土)午後2時～【所】アウガ5階小会議室【欠席投句締切】4月3日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『無駄』『延』『自由詠』【席題】(1題3句詠・2人共選)。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選1句『凶器』【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2025.4.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句

【締切】4月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】6/1発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.04.22 『川柳吟行会ぼ』4月吟行会

【日時】令和8年4月22日(第4水曜日)【吟行場所】八戸市史跡根城の広場(本丸無料開放と枝垂桜)【行程】(往)青森駅9:29発(青い森鉄道八戸行き) == 八戸駅10:51着 == (八戸駅でランチ) == 八戸駅前12:20発(南部バス中心街ラピア行き①のりば) == 約15分乗車 == 根城博物館前下車(こちらで吟行します)(復)根城博物館前14:44発八戸駅前行き南部バス == 八戸駅15:30発(青い森鉄道青森行き) == 青森駅17:07着【問合せ】moritatakeiko@gmail.com (守田啓子) ※合評句会は5月20日(第3水曜日)に青森駅前アウガで14時～

□ 2026.05.02 おかじょうき川柳社本社 5月句会

【日時】令和8年5月2日(土)午後2時～【所】アウガ5階小会議室【欠席投句締切】5月1日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『目力』『尾』『自由詠』【席題】(1題3句詠・2人共選)。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選1句『大豆』【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

